

# 保育所の問題

秋 田 美 子

(三五回生)

岐路に立つ保育所、保育所の危機という切実な感情の中でこの筆をとっております。

明日の夕刻には三十三年度予算案の閣議決定をみるという前夜なのです。昭和の初めから約三十年に亘つて此の仕事にとり組んだ私としては、何としても床に入ることの出来ない気持ちです。

何故なら第一次の予算案の内示で厚生省要求額の半額という、実に無惨な大削減を出して来て以来、十日間に亘つて血の出るような思いで陳情に、請願に、デモに、その他の弘報活動に、全国をあげて頑張つて来たのです。けれども、残念なことに、最終決定の前夜となつた今夕も遂に朗報を手に入れることが出来ません。

早朝からの勤務に疲れた体にむち打つて、夜間陳情部隊の若い保母さん達が、多数集まつて大蔵省に、厚生省に、議員面会に出かけるのを見送り、出迎え、これで幾夜を過したとか。氷雨降る日比谷新音楽堂に傘もささずに集まつてきた働らく母親、保母、園長、協議団体の数千名に昇る人々の国民大会とその後のかうもりデモと某新聞が評したデモ行進のこと、その後の追い討ちの地方代表の上

京による陳情と、私達のような弱い立場にあるものとして、良くここまで勇氣と情熱がつづいたとお互いに驚ろく程の努力をしているに係わらず、文字どおり危機を脱することが出来ないのです。

嵐の中に立つ保育所はこのままでは後退の運命を迎へる他ないのです。この削減反対の運動に参加した誰しもが、今宵はとても眠れるわけはありません。同志の何人かはここ数日に亘つて徹宵の有様で対策に、情報入手にと頑張つておられます。そのやつれと疲労の姿を見ては私達も只夢中で動いて来ました。

だが目的を果すことは出来なかつたのです。明朝早く首相や蔵相に最後の陳情をしようということに今帰つて来てこの筆をとりましたが、様々な感慨に心が騒いで落ちつけません。長い保育所の歴史の中で最も子ども達が守られ、保育所の社会的意義がはつきり打ち出される可能性を私達が感ずることの出来たのは児童福祉法施行後数年という占領下だけであつたということは実に皮肉なことです。

児童憲章、児童福祉法と文化国家の最も基本的な条件の一つである、社会福祉的認識のある政治の芽が伸び始めたたと長年この道で苦

勞された人達が喜んだのも僅かの歳月でしかありませんでした。託児所時代の長い受難と苦闘の保育史の中でしみじみ私達の感じたことは何だつたでしょう。

幼ない子ども達の世界への偏見と誤まつた同情、余りにも不遇な保母の処遇など凡そ救乏事業という名の下におかれた結果から来る人間的差別的雰囲気に対する強いいきどおりでした。不当なべつ視としかも恵まれない処遇に耐えて、なお情熱と使命感を強く意識しつつも、時にはやり切れない気持ちに追い込まれたことも再三でした。昭和十二年からやや戦時色になり、託児所の数は社会的要求に応じて増加しましたが、その方向は次第に私達の望むところと相反し、子ども中心という考え方を遠く離れ、国家主義的な人的資源培養の一施設のようなものになつて来ました。昭和十六年から敗戦までの保育所で保母はつねに子どもの立場と国家的立場の板ばさみになり悩みつづけていたわけです。

簡単に戦争協力の気持ちになり切れないものを子どもたちの行動や心情のゆがみを通して感じながら、辛気持で頑張つて来ての敗戦だけに思い出してもりつ然とした気持ちに今なおおそわれます。設備の貧しさ、手不足、材料の入手困難、雑務の負担などの悪条件は私達の周囲をとり巻いており、大人の混迷した生活そう失の状態にますます子ども達を不幸な方向に押しやるような悲しい現実迎面して、私達はこれは何とかしなければと思いつつ、焼跡の戸外保育に手をつけ、昭和二十二年十二月、児童福祉法施行の日まで殆んど素手に近いような体当り的な保育事業をつづけていたわけです。

この児童福祉法の施行とつづいて制定された児童憲章の私達に与えた光明は、この仕事に打込んで来た者でなくては感じられないも

のかも知れません。漸く子どもの世界の未来への明るい見通しがつき、福祉国家、文化国家の名に相応わしい生活が与えられるようになったと苦しい過去の歴史から転換する時期の来たことを喜こんだものです。

それ以来の数年は確かに託児所時代の子どもと保母の生活を知っている私達には或る意味で働らく母と子が護られて来たという実感がはつきり持てた時期でした。勿論、理想を云えばまだまだ漸く結についたばかりで、他の領域のことに比較して社会保障費は非常に弱いという、昔ながらの女、子どもの世界の運命的短所は拭しよくされておりませんし、決して満足のいくものではありませんでした。

併しそれにしても、児童保護費の漸増は働らく母と子の生活を次第に安定させ、保育所が地域に果す社会的役割に婦人の労働領域の拡大と一般化の方向に伴つて軽視出来ないものとなつて来たことは否めません。保母に対する社会的認識も、戦前の高等守的偏見は少なくともなくなり、社会的認識も高められ、この途に志望する若い人達も次第に増し、その質もあがつて来ていました。

但しその処遇は一般に低く、特に民間保育所保母のそれは全く、その労働に比して余りにも廉すぎました。それも子どもの福祉の一点を望み、凡ゆる要求をそこに絞つて戦後の保育事業の上界に力を入れて来たためにやや取り残され過ぎたという感がないでもない位、私達の目標は痛めつけられた子どもとその母を護ることに専念しました。

極く最近になり、やや児童福祉法の線にそつてその仕事を運営出来るようになり、漸く自分達の身分保障の問題に手をつけかけた

思つた途端に、一昨年辺りから社会保障費の削減が初まりました。福祉法が産れて漸く十年、赤子の手をもぎるような予算への大なたが振われ始めています。防衛費その他への振りむけと知りながら、その日その日を働かなければ生活出来ない母親やその家庭は抗議をする期間も方法も持たずに、時代の大浪の中に埋没されそうになつて来ました。抗議をする術も、言葉も持たない一番弱い線を攻めて、政治的圧力の強い処にそれが持つていかれるのを私達は手をこまぬいて黙視することは出来ないと、いぎりぎりの処まで、今年を送り込まれて来りました。

言葉をもたぬ子ども達、抗議力を持たない母親達に代つてこの傾向を防止するのは保育者とそれを理解する一部の世論だけしかありません。軍人恩給、防衛費、企業融資と何か力と顔で物を言わせる世界のものが優先され、社会福祉や教育予算は貧困、社会悪その他の三悪追放に連なる公約的なものへの予算増は余りにもなおざりにされている政治への抵抗を私達は弱くとも子どもに代つてしなければということが、私達を馴れない運動にかり立てたわけです。

昔の託児所に押し戻そうとする力への抵抗をどうしてもしなければ、又々子ども達の平等な倅せは奪われ、働らくために母親は保育所を利用出来なくなる率が高くなつてしまうことを今年の予算案の内示にはつきりと示して来ました。さすがに母親達も黙つてはいられなくなり、全国各地で署名運動に、代表の上京にとかつての昔は考えられないような動き方をしております。園長や保母も必死の抵抗を試ろみて崩されそうな子ども達の城を守ることに努めているこの二週間程の動きの中で私の特に感じたことは、現在の政治家への不信の感情でした。

勿論一部には真剣に社会福祉の問題ととり組んでる人達もあることは事実です。併しそれは稀にみる程度のもので、弱きもの、貧しき者のために自分の政治生命をかけようとする人の余りにも少ないことへの憤りを感じました。

私達の要求していることは決して自分自身を益するということよりも、寧ろ私達の相手である子ども達、母親達の倅せのためなのです。極く慎ましやかに自分の身分保障は少しは他の職業人並みにという程度にしか出してはいない、いじらしい程のものでしかありません。

全国九千施設の保育者とその背後にある保護者は明日の予算決定発表を寝もやらぬ思いで心を痛めております。これは決して数字の額の問題ではなく、児童問題を国の施策の中でどのように考えているかの方向とつながる基本的なものだけに、三十年の歴史を昔に巻きかえすような動きだけは断じて許さぬ決意を総選挙の声を間近かに控えてお互いの心の中に強く持たねばならないことだと考えております。

(東京都白金保育園園長)



Ki.N.